

学校教育目標	「ひとみかがやく 公田の子」				
	○主体的に学習に取り組み、自分の考えを深め、生き生きと表現できる力を育てます。(知) ○お互いのよさを認め合い、自他を大切にすることを育てます。(徳) ○「心」や「体」の健康に興味関心をもち、いのちを大切に、心身ともにたくましく生きる力を育てます(体) ○まちのよさを知り、まちとの関わりを大切に、まちや社会のために自分を生かそうとする力を育てます。(公) ○人とのコミュニケーションを大切に、グローバルな視点をもって、人とともに生きていこうとする態度を育てます。(開)				
学校概要	創立 43 周年	学校長 田中 磨理子	副校長 石井 直正	2 学期制	一般学級: 10 個別支援学級: 3
	児童生徒数: 280 人		主な関係校: 桂台中学校・本郷中学校		

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
〈自己肯定感〉 〈主体性・積極性〉 〈思いや考えを表現する力〉 〈コミュニケーション能力〉	桂台中学校 桂台小学校 公田小学校	生き生きと自分の思いを表現する児童生徒 ○「生き生きと自分の思いを表現する児童生徒」について検討し、ブロックとして育成を目指す資質・能力を9年間の学びのプロセスが見える形で「小中一貫カリキュラム」としてまとめることを目指す。 ○「生き生きと自分の思いを表現する姿」を引き出す学習と、「人権を視点にした授業のあり方」について探る。

中期取組目標	○子ども一人ひとりを大切に、家庭や地域とともに、笑顔いっぱいの学校にします。 ・友達と学習するよさを実感し、自分の考えをもち、自分の考えを深め広げられる授業づくりを推進します。 ・一人ひとりの実態を大切に、基礎・基本の学力の定着化をめざします。 ・子どもたち同士がよさを認め合い、周りの人との関わりを大切に、楽しく学校生活を送れるようにします。 ・子どもが自身の健康に興味関心を持ち、心と体を一体とした健康づくりを行い、やればできるという自信を育てます。 ・まちの「人」と「もの」とのつながりを大切に、豊かな体験を通して、まちが大好きな子どもを育てます。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
生きて はたらく知	①「公田タイム」を実施したり、宿題を家庭と連携したりすることで、基礎基本の充実や学習に取り組む習慣を育てる。②重点研究では、自分の考えをもち、友達との意見交流等を通して、自分の考えが深まり、考えの広がりを実感できるようにする。③重点研究を通して、他教科や実生活に活用できる授業を展開し、学習効果を高める。
豊かな心	①道徳教育では、心や命の大切さを育む学習を計画する。②横浜プログラムを実施し、よりよい学級経営に繋げる。③人権について児童が考える時間を持ち、人権意識を高める。④清掃活動を通して、温かい心を育む。⑤なかよし班活動では、温かい心を育み、高学年がリーダー性を発揮し、お互いのよさを認め合える機会とする。
健やかな体	①本校独自の「キラキラ体操」や「なわとび」で、健康づくりを推進する。②健康にかかわる記録を経年で綴じ込んだ「大きくなったよファイル」を活用し、成長を振り返り、実感できる時間を確保する。③オリンピック・パラリンピアンとの交流やオリ・パラに関わる競技に親しみ、「する」「見る」「知る」を視点に、スポーツの価値への理解を深める。
児童指導	①週1回の朝打ち合わせに、児童理解の時間を定例化し、児童の状況を共通理解するとともに、児童対応の早期発見・早期対応に繋げる。②生活習慣や生活のルールを徹底することで、「当たり前を徹底」する。③教室の学習環境を統一し、学校生活や学習のスタンダードを明確にし、全児童が安心して学べる教育活動を行う。
安全管理	①不審者侵入等の防犯体制(日々の門扉の施錠・学校行事における防犯体制の確立、施設設備の点検・改修)の一層の充実を図る。②教職員が、防犯体制や安全対策等の研修等を実施し、安全管理に関する意識を高める。③登下校の集団登校や防災・避難訓練等を通して、自分たちの身を自分たちで守る意識を高める。
健康管理	①ゲストティーチャーとともに、6年間の系統性を図って歯科指導や体幹を鍛える指導を実施することで、健康に興味・関心を持ち、生活習慣を整え、健康を管理・改善できるようにする。②健康な「心」と「体」を育む学習では、外部講師を招き、健康的な生活に必要なことを学ぶことで、健康の大切さに気付くようにする。
地域連携	①「学校だより」「学校HP」等を充実させ、情報発信に努める。②学校・地域防災訓練を実施し、地域を守るために活動している方がいることや役割等について知るとともに、地域の一員であることの自覚を養う。③学校と地域がより強い繋がりの中で教育活動を行うために、前期で準備を行い、後期から協働活動事業を開始する。
いじめへの対応	①児童支援専任を中心に、管理職を含めた教職員が「報告・連絡・相談」を徹底する。②認知された案件の経過確認を丁寧に行うことで再発防止に努める。③全職員がいじめに対するアンテナを高く持ち、児童アンケートにより、些細な変化を見逃さない体制づくりをする。
人材育成・組織運営(働き方改革)	①メンターチームをミドルリーダーも含めたメンバーで組織し、その総括を主幹教諭が行い、若手職員の指導力向上とミドルリーダーのマネジメント力を育成する。②全職員が笑顔を絶やさず、明るく元気に「プラス思考」で前向きに「チャレンジ」する。③「何のための働き方改革なのか」を共有し、「やめること」「減らすこと」「大切にすること」を精選することで、自校に合った改革を推進する。